

2019年4月1日

インドで考えたこと(モディ政権の5年)

公益財団法人 国際通貨研究所
専務理事 倉内 宗夫

作家堀田善衛は60年以上も前にインド各地を旅した思いを「インドで考えたこと(岩波新書、1957年初版)」で次のように記した。「歩みがのろかろうがなんだろうが、アジアは生きたい、生きたいと叫んでいるのだ。西欧は、死にたくない、死にたくない、と云っている」。アジア各国が西欧の植民地支配から脱却した直後でもあり、先行きの視界ゼロの中で、貧しいながらも人々の「生きたい」といううねりのようなものを感じたのであろう。

そのインドが市場経済に移行したのはわずか30年弱前に過ぎないが、今ではGDP世界第6位、かつ主要国で最も経済成長率が高く、更なる発展が期待される国にまで成長した。

一方で世銀統計によれば、2015年時点でインドは1億7千万人ももの貧困層を抱え、全世界の貧困人口の1/4に達する。これもインドの現実である。

私は、今年1月にモディ首相の出身地グジャラート州の開催する投資誘致会議・産業博覧会である第9回 Vibrant Gujarat (VG) に日本からのミッションの民間側代表として参加した。

VGの会場はグジャラート州最大都市アーメダバードから車で1時間の州都ガンディナガルにある。宿泊地アーメダバードから会場までの道中は、初めて訪れる人にはややショッキングな風景が目飛び込んでくる。立派な白亜の建物があると思えば、すぐその近くに一応壁と窓はあるが今にも崩れそうな建屋や、ブルーのテントの家、はたまた壁もなく雨露をしのぐ粗末なビニール張りの天井だけのみすぼらしい住まいなど、様々な貧困層の生活がうかがい知れる。現地関係者に聞くと、政府は貧困対策の一環で住居を提供してはいるがなかなか定住してくれないようだ。言われてみれば当然だが、政府提供の快適な家に住むということは、水道や光熱費の支払い負担が生じてくる。貧困家庭は収入源が限られているので、結局政府の供給する家を第三者に賃借することで家賃収入を得て、自分たちは昔のままの粗末な住居での生活に戻るといったパターンも多いようだ。またインドといえば神聖な動物である牛を連想する。さすがに首都ニューデ

リー市内ではその姿を見かけることは少なくなったが、アーメダバードでは市の中心部を悠然と牛が人と同じように車道や歩道を歩んでいるという不思議な光景をしばしば目にした。

それでも 2015 年以降 3 回目の当地出張となった私の目には、この 4 年間での街の景色の変化は著しい。道路は整備され、アーメダバード都心の交通マナーもそれなりに改善された気がする。とりわけ社会インフラの整備例として、日本の技術支援で市内のライトレール（都市交通システム）が完工に向けて着々と工事が進展していたし、注目のアーメダバード・ムンバイ間を結ぶ新幹線計画も動き始めた。

VG の開始は 2003 年に遡るが、今や数十か国の政財界要人が集う一大イベントに発展し、モディ氏はその成功をてこに中央政府のトップにまで登り詰めた。もともとは我が国経産省からインドのジェットロに出向していた T 氏が、グジャラート州への産業誘致のアイデアを当時の州首相であったモディ氏に持ちかけたことに端を発していると聞く。首相就任後も毎回メインの顔として参加している。モディ首相は開会式終了後に会場視察を行うが、かかる経緯もあるためか最初に顔を出すのは日系企業の出展する 1 号館パビリオンで、今年も同様であった。加えて今回は、モディ首相と日本からのミッション代表との面談も実現し、同首相からは両国若者の交流促進の必要性と、経済面ではとりわけ鉄道事業での日本への熱い期待が滔々（とうとう）と述べられた。

さて、今年にはインド下院の総選挙の年である。2014 年 5 月に最大野党 BJP 党首モディ氏は総選挙に圧勝して第 18 代首相に就任し、早や 5 年が経過した。

モディ政権の代表的な施策といえば「Make in India」である。インドを世界の製造・輸出拠点とする構想だ。ビジネス環境では世銀の Ease of Doing Business 指数をみると、2015 年の 142 位から昨年は 77 位にまで上昇している。

主要成果を列挙すると次の通りだ。

- ① Make in India による製造業強化、インフラ整備への積極的取り組み
- ② 倒産法の成立
- ③ 高額紙幣の廃止
- ④ GST (Goods & Services Tax) 施行

いずれも偉業だという評価がある一方で、多くのインド人との会話では、①の施策による雇用創出は期待値に達せず、②と④は前政権からの継続事案に過ぎず、③は闇資金のあぶり出しに効果があったが当初の目的は果たせていない、という辛口の声も聞かれた。併せてインド中銀 (RBI) の総裁人事を巡るぎくしゃくした動きも気になるところだ。

来月の下院総選挙では 9 億人の有権者が投票する。昨年末の地方選挙でモディ首相率いる政党 BJP は 5 州のうち 3 州で敗退した。高額紙幣廃止で経済が混乱し、農産品価格の低下に悩む農民も反モディに動いたようだ。そこを突くかのようにラルフガンジー率いる野党国民会議派は「ミニマム・ベーシックインカム」導入というバラマキ公約を掲

げ、貧困層の囲い込みを図っている。財政赤字拡大やモラルハザードという問題を見無視して農民票獲得に走る政治は如何なものかという気がするが、BJPも似たりよったりであるとも聞く。インドの下院総選挙は小選挙区制ゆえ、5年前のように地滑りの勝利につながる可能性があり、成り行きが注目される。

堀田氏が今のインドを旅したならば、どのような思いを巡らせるだろうか。「生きたい、生きたい」という人々の熱い思いを一層感じるに違いない。課題山積だが、国民の多くが近い将来まだまだ豊かになるという夢をもてる社会であるからだ。皮肉にも旧宗主国の英国は、足下 BREXIT で大混乱している。英国は「死にたくない、死にたくない」ともがいているのであろうか。改めて「インドで考えたこと」の続編があれば是非とも読んでみたいという気持ちにかられた。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>